

# ERIC通信

第三世代 第7号

発行 ERIC国際理解教育センター

研修を企画される皆さまへ

## 参加型研修の提案

～21世紀を「学びが先行する社会」へ導くために～

### 参加型「気づきから築きへ」プログラムの特徴

#### 1.一人ひとりを全的なものとして扱う

「参加者一人ひとりは全的な存在として心とからだと頭、すなわち「理性と感性」「理論と感情」「認知と情動」というように表現される諸側面の統合された存在です。さらに一人ひとりには歴史があり、思考、経験、言葉が違ってくることは当然です。ファシリテーターは、そのような違いを肯定的に受容する、そしてお互いがともに集中して考える学びの場をつくることを保証します。

#### 2.コミュニケーションを活性化させる

人と人が対面してのコミュニケーションは、「考える」「話す」「聞く」「問う」「表現する（視覚的・身体で）」といった5つの要素が基本であるといえます。プログラムを進行するファシリテーターは、この5つの要素についてしっかりととした技術・スキルを取り入れ、コミュニケーションを活性化させます。

#### 3.みんなの課題に迫る

ERICの国際理解教育に基づく参加型「気づきから築きへ」プログラムは、これから私たち共通の学習課題に、一人ひとりが気づき、行動することを目指して組み立てられています。

「人権」「環境」「開発」「平和」「ジェンダー」などはオーストラリアの環境教育者ジョン・フィエン氏がいよいよ相互に関連した1つの総合的な学習課題なのです。これらは、現在の社会および国際社会の共通の課題であり、これから社会の在り方・ビジョンを探るための学習です。

変化の激しい社会では、だれもが学齢期には学ばなかったような課題が次々と出てきます。私たちが社会的努力として、生涯学習社会の基盤整備を進めなければならないのはそのためといえます。

社会的な教育努力が、「学びが先行する社会」を開く、公正で、持続可能な社会の鍵なのです。

・ERICとは?  
教師、研究者、社会教育関係者など有志が集まって1989年に設立。国際理解教育を、環境・平和・人権・開発・多文化・未来教育など広い範囲にわたってとらえている。教材開発・翻訳、研修・ワークショップなどを通じて学校教育・社会教育で実施できる授業案・活動案の普及を図る。

・研修実績  
1994年に委託講師派遣事業を開始して以来、年間150回、述べ10000人以上の方を対象に研修を実施。現在ERICが派遣するファシリテーターは7名。各地で活躍している人もいます。

\*次ページには具体的なテーマ別の研修提案を掲載しております。

## ERICの研修～人権教育は変わる～

### 提案1 人権尊重文化に向けて人権教育

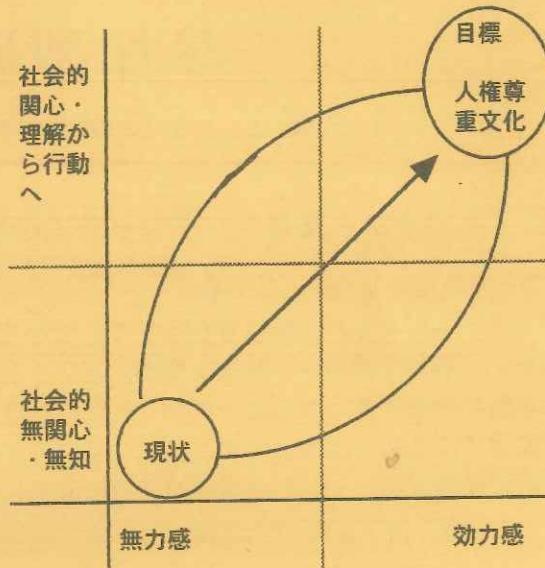
### 提案2 コミュニティ意識を育てる

日本には、同和問題、障害者問題、子どものいじめ問題など、依然として存在しています。しかし、そのような社会的偏見・差別をなくすための教育では社会を変化させる力には成りえません。「～しない」という行動は社会的な無関心や個人的な無力感へつながるからです。

そして、私たちが取り組めるのはさまざまな問題を共に解決していくこうとする「コミュニティ」を形成すること、そのようなコミュニティに対する信頼と協力を育てることではないでしょうか。ERICの研修ではコミュニティ意識を育てるためのアクティビティを取り入れ、行動へとつながる基盤をつくっていきます。

#### ・研修使用テキスト

「人権教育ファシリテーター・ハンドブック」



#### ・研修実績 179回（1999年度）

研修先として、大分県同和対策室、香川県教育委員会、神奈川県

教育庁同和教育課など多数。

研修例 平成12年度啓発指導者養成セミナー（第1回担当／全4回）

対象者 市町村職員、実務経験3年以上／企業の人権問題啓発担当者

#### プログラム（1泊2日 10時間研修）

- 1 ミニレクチャー（人権の課題／参加型の方法論）
- 2 参加者はどんな人？（気づきのアクティビティ：偏見・差別について考える）
- 3 しがらみの糸（気づきのアクティビティ：差別される側への共感的理解）
- 4 ミニレクチャー（人権教育の4つの諸相：上図）
- 5 人生の河（気づきのアクティビティ：自分自身をふりかえる）
- 6 話し合いのルールづくり
- 7 過去の共有／現状分析／未来のビジョン（書きのための参加型手法：時間的に捉える）
- 8 誇りに思うこと・残念なこと（書きのための参加型手法：対比させて考える）
- 9 人権研修のプログラムづくり（書きのための参加型手法：計画する）
- 10 行動へつなげる参加型手法の応用
- 11 評価の視点（書きのための参加型手法：指標で捉える）
- 12 ふりかえり

（研修時間の目安：一般研修（課題に気づく、参加型体験：3～5時間）

指導者研修（参加型体験+現場での応用；6～12時間以上）

ファシリテーター養成（研修企画、実践、推進基盤づくり：6時間×3回以上）

## ERICの研修 ~環境教育が拓く未来~

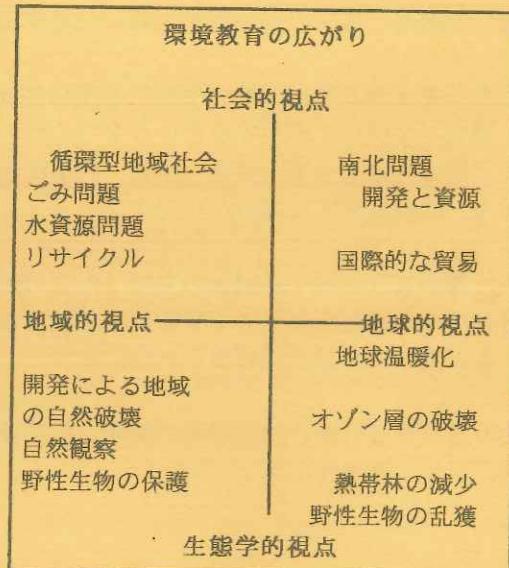
提案1 環境教育を複雑・広範なものととらえ、体験を経験に、  
そして行動へつなげる

提案2 環境教育推進の担い手を育成

自然体験を単なる体験に終わらせず、自らの経験としていくことによって、行動変容、応用力が生まれます。原理・原則・概念をつかみだすことのできるアクティビティを通した参加型経験学習がERICが提案したい「気づきから築き」への学習なのです。

また、広い意味での環境教育、持続可能な社会を実現するためのお互いの学び合いを促進するには、時間とエネルギー、そして強い願いが必要です。そして、その努力を少しでも効果的なものにする技術は存在します。効果的な会議の持ち方、協力の方法論、幅広い参加による合意形成、プロセス志向の考え方などです。ERICの担い手育成研修は「プロセス・ファシリテーター」としての資質の向上を目指します。

- ・研修使用テキスト 「環境教育指導者育成マニュアル」
- ・研修実績 67回（1999年度 環境・開発・地域づくり）  
岐阜県健康福祉環境部、福岡県リサイクル推進室など参加対象者は地域で活動する市民のリーダーが多い。



### 「環境」を理解するためのERIC環境教育カリキュラム例

プログラム1.木と学ぼう	環境の意識化や木の多様な役割、生態系システムなど概念を学ぶ
プログラム2.食べ物から世界が見える	身近な食べ物から生態系の3原則、貧困の原因を考える
プログラム3.国際貿易とわたしたちの生活	私たちの身近な生活と途上国とのつながりを意識化する
プログラム4.小さな島の開発問題	開発をテーマに持続可能な社会について迫る
プログラム5.ペドロの開発	開発に関わる様々な立場をロールプレイを通して共感的な理解をする
プログラム6.援助の真実、あるいは真実の援助	本当に必要なものは何かについて考える
プログラム7.人口問題	日本と世界の両方から人口問題が先進国の問題であることに気づく
プログラム8.エネルギー・イン・ショート	エネルギーを通して私たちのライフスタイルを見直す
プログラム9.ジェンダーと開発	環境破壊の深層にあるジェンダーの問題に焦点をあて、これから社会について考える
プログラム10.ファシリテーター養成	環境教育の原則、アクティビティの構造、プログラムの流れ、ファシリテーターのスキルについて学ぶ
プログラム11.フィールドをつくる	フィールドを活用した環境教育の事例と行動計画づくり
プログラム12.推進の基盤をつくる	環境教育の推進のために、地域のリソース分析から合意形成の手法までを学ぶ

## 2学期に「対立」を扱おう

### ●なぜ『対立から学ぼう』が必要なのか？

対立は、子どもたち・大人である私たち全ての人の日常生活において起こり、対立の扱い方は、生きる力（技能）であり、人生の豊かさを大きく左右すると言っても過言ではありません。

このカリキュラムには、社会生活に必要な技能を身につけ、問題解決に取り組む力をつけること、それを教科・領域（学問）に応用するという2つのねらいがあります。子どもたちが自分自身の生活における対立を理解することによって、文学、歴史、時事問題のような教科・領域で扱われる対立を、より身近なこととして捉え、理解しやすくなるからです。

集団行動が成立しにくい現状の中で「対立の解決の技能を教えることなんてできるだろうか」「実際に今の子どもたちの状況をよりよくすることなどできるだろうか」と不安に思われるかもしれません。ぜひ、この機会に学びを深めましょう。

生きる力を育む「総合的な学習の時間」の基盤として、年間を通して学年・学校全体で取り組むことに、チャレンジしてみませんか？

### □参考アクティビティ 「暮らしの中の対立」ロールプレイ

- ・ねらい ロールプレイを通じて、自分の身のまわりにある「対立」の原因やさまざまな結果について深く考える
- ・進め方
  - 1 教師は具体的な状況を設定する
  - 2 この状況の結果、どうなるのか「ブレインストーミングで発想を刺激する
  - 3 登場人物ごとにグループをつくり、それぞれの登場人物の立場にたって、感じ方、次になにをするか、一番の解決策は何かなどを話し合う
  - 4 役を分担して状況を演じてみる
  - 5 それぞれ状況を演じてみて以下のことを分析する
    - ・どんな気持ちがしたか
    - ・対立の背景は何か
    - ・グループによって違う結果になったが、違いについてどう思うか
    - ・異なる結果によって、登場人物の誰が得をし、誰が損をしたか
    - ・どの結果が一番公平か
    - ・登場人物のひとりひとりに助言をするとしたら何か

引用文献：『ワールドスタディーズ』（翻訳発行ERIC）

### 暮らしの中の対立例

●学校で  
教室のピアノが壊れていた。誰がしたのか聞いても返事はない。先生が、「もし誰も答えないなら、今日の放課後全員に残ってもらいます」と言います。すると、一人の子が「でも先生、今日はサッカーの試合なんです。ぼくは残れません」といい、別の子から「そんなのズるいや」という声があがります。そこで先生は・・・

●家で  
9歳の弟がテレビを見ていたら、12歳の姉が帰ってきて「わたし、毎週みてるドラマがあるから」といってさっさとチャンネルを変えてしまいます。そこで弟は・・・

●近所で  
4人のサッカーチームがチームが勝ったので気分よく帰っていました。すると前を歩いていた負けたチームを応援していた3人組みが「あいつらが勝ったのはいつものとおり汚い手を使ったからだ」と大きな声で言っていました。そこで4人は・・・

ERIC主催研修のお知らせ

学級・学校の基盤づくり、総合的な学習の時間に必須

『対立から学ぼう』カリキュラムと教え方トレーニングセミナー

●セミナーのねらい：

対立の扱い方・解決へのプロセス・カリキュラムを理解し、学校・地域・組織の問題解決・グローバルな視点への応用力をつける。

	10/7（土）	10/8（日）	10/9（祝）
10:00~12:00	セッション1： 安心感のある場づくり	セッション4： 怒り・感情の扱い方	セッション7： ものの見方はそれぞれ さまざま
13:00~15:00	セッション2： 対立は悪くない／ 対立の扱い方	セッション5： 言葉を豊かに	セッション8： 本当に満たされたいこと
15:15~17:15	セッション3： 対立は激化する／ 内在化する	セッション6： 共感的に理解する	セッション9： 実践に向けて (カリキュラムの評価)

\*セミナー参加費には、1998年3月に実施された「『対立から学ぼう』集中基礎コース」のふりかえりと発展を活かした教材『対立から学ぼう～実践編』が含まれます。『対立から学ぼう』をお持ちの方は、当日必ずお持ちください。  
お持ちでない方は、当日別途購入（ワークショップ価格：4000円）をお願いいたします。  
(参加方法については次ページをご覧ください。)

1月3-4日

人権教育『気づきから築きへ』ワークショップ

今回のワークショップでは、多様性教育の接点を探りつつ、人権教育で伝えたい概念に迫ります。

また、今年まとめた「人権教育ファシリテーター・ハンドブック」を活用してERICの人権教育の概念を検討していきます。

人権について考えておられる専門の方とともに、普段から社会の生きにくさを感じておられる方やこれから考えてみようと思われる方に積極的に参加していただき、その思いを教育的活動にまとめましょう。

この研修で、国際理解教育指導者制度 参加型研修「人権」分野の修了証が取得できます。

2001年 1月19-21日

「M.E.E.Tザ ワールド」国際理解教育プログラム

毎年、カンボジアへ海外ボランティア事前プログラムとしてM.E.E.Tザ ワールド」プログラムは展開しています。

今年度も、2~3月の時期にカンボジアへボランティアとして行ってくださる方を募集しております。

また、ボランティアは無理でも、開発と環境、援助とボランティアなどの問題に関心のある方はぜひ参加してください。

3日間の集中研修で、国際理解教育指導者制度 参加型研修「開発」分野の修了証が取得できます。

## 2000年 ERIC主催研修

### STEP 1 「人を啓ぐ」

～関心 (AWARENESS) と知識・情報 (INFORMATION) を育む～

1. わたしからはじまる国際理解教育 (6セッション=12時間) 終了しました  
コミュニケーションを切り口に、国際理解教育を考えた2日間。参加者のみなさんと現場で使えるワークシートも考案しました。  
これからの教育で育てたい力の一つであることをみんなで共有しました。
2. グローバルセミナー2000  
「対立を越えて・世紀を越えて 地球の明日とわたしたちの力」  
ゲスト：サイモン・フィッシャー (ワールドスタディーズ著者)  
日本初「RTC対立を解きほぐそう」プログラムは大変好評の内に終了いたしました。  
まだまだ、「対立」を扱うことに不慣れな日本において、ERICの「対立から学ぼう」とは少し趣を変えた流れのあるプログラムは大きな学びとなりました。  
また、参加者のみなさんありがとうございました。みなさんの現場においても応用されることを心より願っております。

7月

### STEP 2 「社会を開く」

～態度 (ATTITUDE) と行動 (ACTION) を育む～

3. 「木と学ぼう」ファシリテーター養成コース (環境) (9セッション=18時間)  
ERICが扱う「木と学ぼう」をベースに、今回はフィールドの特徴をつかんだアクティビティづくりに挑戦しました。  
森チームと川チームに分かれて作ったアクティビティは、レッスンパンクにて発売いたします。  
参加されたみなさん、猛暑の中本当にありがとうございました。

8月

- 4 「対立から学ぼう」カリキュラムと教え方トレーニングセミナー  
(9セッション=18時間)

日 時：10月 7-9日（土、日、月祝） 10:00~17:00

場 所：ERIC国際理解教育センター4F (JR山手線 田端駅北口 5分)

テキスト：『対立から学ぼう』

内 容：私の中の葛藤からグローバルな対立までを視野に入れ、対立における感情の扱い方や解決に向けたスキルを身につける

募集人数：15名（最小実施人数7名）

参加費：20000円（テキスト代込）

10月

◎参加ご希望の方は、次ページの参加申込書をお送りください。

◎ERICでは講師派遣事業も行っております。ご希望の方は研修部までご連絡ください。

5. 「気づきから築きへ」ワークショップ（人権）（6セッション=12時間）  
日 時：11月 3-4日（金祝、土） 12時間  
場 所：ERIC国際理解教育センター4F（JR山手線 田端駅北口5分）  
テキスト：『人権教育ハンドブック』（仮題）  
内 容：ERICが人権教育の実践で育んできた人権を尊重していく7つの知恵と7つの力について学ぶ  
募集人数：15名（最小実施人数7名）  
参加費：13000円

11月

- STEP 3 「未来を拓ぐ」  
～問題提起・政策提言(ADVOCACY)を育む～  
6. 「M.E.E.T.ザ ワールド」国際理解教育プログラム（9セッション=18時間）  
(海外派遣ボランティア育成コース含む)  
日 時：2001年1月 19-21日（第3金、土、日）  
場 所：ERIC国際理解教育センター4F（JR山手線 田端駅北口5分）  
テキスト：『参加型で伝える12のものの見方・考え方』他  
内 容：参加型による国際理解教育をどのように実践していくかを考える18時間。語学教育と国際理解教育、ボランティアなど他の研修にはない切り口からせまる  
募集人数：12名（最小実施人数5名）  
参加費：20000円（テキスト代含む）

1月

7. 「教育力向上講座（TEST）」（9セッション=18時間）  
日 時：3月 24-26日（土、日、月）  
場 所：ERIC国際理解教育センター4F（JR山手線 田端駅北口5分）  
テキスト：『未来を学ぼう』他  
内 容：これからの教育を考え、教育力を高めるスキルを身につける  
募集人数：20名（最小実施人数8名）  
参加費：30000円（テキスト代含む）

3月

◎研修の申込方法 以下の申込書に必要事項を書き込みERICまでFAX、または郵送ください。  
参加費の振込順に受け付けいたします。詳しい内容は研修部までお問い合わせください。  
また、Emailでも受け付けております。（Email: eric-net@try-net.or.jp）

ERIC主催研修申込書

- ・参加したい研修番号 ( 4. 5. 6. 7. ○をつけてください)
- ・名前 ・住所 ・電話／FAX ・所属／関連団体をお書きください。

研修参加費振込先：郵便振替 00180-5-710744 口座名称 ERIC事務局 (振込日 / )

## ERIC 資料室 アルバイト募集

ERICの基盤である資料室を担当していただける方を募集しております。週1回8時間程度。

資料室の積極的な活用を提案していただける方を望みます。

なるべく、長期の間勤まる方、そして国際理解教育に関心のある方、お気軽にお問い合わせください。

ERICは、あなたの協力を必要としています。

(問い合わせ担当：資料室 馬場まで)

### ERICに関わりたい遠方の方へ

ERICの中・長期的展望とともに考えるERIC運営委員をより多様な方々によって構成していくために「遠距離運営委員」という枠があります。

「遠距離運営委員」になつていただいた方には、毎月の運営会議の資料が送付され、また機会を設けてあなたの地域で運営会議を開催することも考えております。ご希望の方は、ERICまでご連絡ください。

(ERIC：運営会議議長団まで  
飯塚、木野、加藤)

### ■ERIC通信 定期購読のお知らせ

ERIC主催研修に参加および書籍を購入された方には、1年間無料でお送りします。それ以降の購読継続をご希望の場合、年間¥1000の購読料を下記の郵便振替口座にお振込みください。また、ご紹介・お問い合わせいただいた方には、最新号を無料でお送りいたします。購読を継続される場合は、年間¥1000を郵便振替口座にお振込ください。

■ERIC事務所では第2金曜日午後6:00~8:00 ERIC事務所にて運営会議を行っています。運営会議は開かれた会議を目指しており、現在、教育活動やNGO活動でお困りの方、ERICにご興味のある方、参加型手法を使って課題を解決したい方などどなたでも参加できます。お近くに来られた際などぜひお立ち寄りください。みなさまの参加をお待ちしております。

### ■事務所 活動時間

月、火、木、金曜日 午前10:00~午後6:00です。事務所にご来訪の際はご一報いただけすると幸いです。

### ■資料室利用のご案内

ERIC資料室には、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなどの英文文献1000点以上、人権、環境に関する日本語文献が800点以上あります。みなさまの研究の一助としてご利用ください。

利用料金：入室料¥500（コーヒー付）

### ■ERICスタッフ募集

ERIC事務局では、スタッフ、インターン、アルバイト、ボランティア、ファシリテーター、書籍販売のプロモーションと様々な形でのERICに関わってくださる方を募集しております。ERICとともに21世紀の教育をつくっていきませんか？ご関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

### ■ERIC ホームページ&Eメール アドレスをご利用ください

ホームページ <http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

Eメール eric-net@try-net.or.jp

### ■書籍購入・研修参加 (ERIC通信購読料) 費用は下記の口座に振込をお願いします。

書籍専用 郵便振替 00160-3-547794 口座名称 ERIC

研修参加費・ERIC通信購読料

郵便振替 00180-5-710744 口座名称 ERIC事務局